

校名：埼玉大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒330-0061

電話番号：048-833-6288

記載日：平成28年6月10日

記載者：栗原敏枝

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

都市部に位置しながらも、園の周辺には自然が多く見られる。その中を、子どもたちは保護者と手をつないで通園する。保護者の手から、確実に、教師の手へ渡された子どもたちは、1日、伸び伸びと遊ぶ。子どもたちは明るく、素直で、礼儀正しい。保護者も、毎日の登園降園の際の服装、立ち居振る舞いに十分気を配り、地域のお手本たろうと努力をしている。園に対しては、大変協力的で、保護者の手による、園庭の全面芝生化を実現させた。

貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡はしていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡はしていない。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

◇PTAと連携した「緑の園庭プロジェクト」

本園はさいたま市中心部に位置しながら、恵まれた園庭をもち、「子どもの自らのびる力を育てる」という教育目標の下、全園児80名が毎日明るく伸び伸びと園生活を送っている。園庭をはじめ、幼稚園環境を維持・向上させるため、以下のような活動を行ってきている。

【PTAの環境整備活動】

- (1) 園舎周りの清掃・除草作業（週1回）
- (2) 全保護者による夏期休暇中の除草作業
- (3) 園芸活動（花壇の手入れ）
- (4) おやじの会活動（タイルの補修、側溝掃除、大がかりな除草作業）

【園庭の全面芝生化】

園庭については、ここ数年、晴天時の枯渇化、雨天時の水はけ等、問題であったが、予算の関係上解決に至らなかった。しかし、埼玉県が「緑の園庭・校庭促進事業補助金制度」を設けていることを知り、この制度を利用して、土壌改良と園庭の全面芝生化（130坪）を夏休み期間に実施することとした。芝生化には、様々なメリットがあると考えられる。園庭の砂埃や温度上昇の抑制、水はけの改善、安全性の向上、それらに伴い外で遊ぶ園児の増加等である。また、広く考えれば、地域の緑化推進に貢献し、昆虫等が増えることによる自然とのふれあいも期待される。さらに園児が芝生を自ら植えることで、芝生を大切にする心が育つとともに、自分の園への愛着も増すと思われる。しかしながら、芝生化を検討するとき、いくつかの課題が浮かび上がる。その一つは、芝生を定着させていく上での、園（教師）の負担の問題であり、また、園児の活動の制限といったものである。そこで、園とも話し合いを重ね、芝生化が園の負担となることがないように、PTAとしてできる限りの支援を行うこと、そして、「きれいで整った芝生の園庭」ではなく、「子どもが遊べる芝生の園庭」をめざすということを確認して、芝生化を進めていくこととした。

【芝生化の流れ】

- 5月 芝生化に向けての検討・話し合い
- 6月 県への申請・承認
- 7月 水まきボランティアの希望収集
- 7月15～18日 工事・芝生の植栽
- 8月 水まき

【芝生化による園庭の変化】

①芝生化前の園庭



②夏休み中に教員と保護者が水まきを行い、芝生が生えそろうっていく様子。



③芝生が生えそろう、子どもたちも喜んでいる。
虫や鳥も、多く来るようになった。



④教員や保護者の感想

- ・園庭に出る頻度が高まりました。転んでも痛くないと感じるようで、動きが積極的になったように思います
- ・転んでも立ち上がるまでの気持ちの切り替えが早くなりました。
- ・園庭を裸足で走ることが心地よく感じている様子が見られます。芝生に寝転がったり、裸足で走ったりする子が増えました。また、走るときの踏ん張りがきくようになったようです。
- ・芝の植栽、水遣りを親子で参加することで、芝に愛着をもちました。
- ・子どもが転倒したときの体への負担が少なくなったように感じます。

【まとめ】

家庭と園で、保護者と教師で、子どもを共に育てる。共に育てることで、子どもと保護者と教師が共に育っていく。これは、本園PTAの理念であり、めざす姿である。

今回植栽した芝はティフトンと呼ばれる品種で踏まれれば踏まれるほどよく育つと言われている。継続的な芝生の育成を通じて「育てる心」を育み、この芝生の上で園児が安心して元気に「育つ」ことを願っている。そして21世紀を力強く生き抜く子どもたちを育てていくために、保護者と教師が共に歩いていく。